

## 地域資源の有効活用を目指して

少子高齢化と、人口減少が進むなか、積丹町ではその立地や多様な資源に着目する企業や大学等の各種の調査研究活動など、町外の民間活力の誘導により、町の活性化対策に取組むため、「旧積丹牧場跡地」や「旧入舸・幌武意小学校」などの未利用・低利用

施設等の多様な当町の地域資源の利活用<sup>みち</sup>の途とその可能性を探る地方（町）の創生を指しています。

今回は国の平成27・28年度地方創生交付金に採択された2計画事業のうち、「旧積丹牧場跡地」を活用して事業に着手した『積丹の気候風土を

積丹町でも地場農産物の活用とハーブ類等の植物の栽培による原材料生産と、市場流通調査を行い、『積丹GIN』の生産の可能性について調査を行います。国内でのジンの生産事例はごく僅かであり、恵まれた自然環境を誇る当町の優位性を活かした調査事業を実施するほか、地域の農水産物を活用したスピリッツに合うおつまみの「マリアージュ（食べ合わせ）開発調査」を行います。

### 原材料生産地に多彩な可能性

活かした「スピリッツ（蒸留酒）開発」によるしごと創生事業」を紹介しします。

### 「ジンの名産地」に似た気候風土を活かして

複雑な海岸線と冷涼な気候風土が積丹町とよく似たスコットランド最北端のシエトランド諸島では、大麦やライ麦、じゃがいもに香り付けのハーブ類を加えた蒸留酒「ジン」が生産されています。

ジン開発の原材料生産地には旧積丹牧場跡地の町有農地を活用します。当該町有農地は根菜などの生産性が高いとは言えない土壌のため、「積丹町ウニ殻等有効活用プロジェクト事業」による農業用材を開発し、土地の改良に役立てます。また、荒れた農用地には実績のある道産馬「ごさんこ」等を活用した農地整備と併せた体験型観光農場を視野にした調査事業を進めます。

### 【平成28年度計画内容】

事業名	事業内容
(1) 積丹GIN開発	
①気候・土壌調査及び栽培試験調査等	・旧積丹牧場の気候調査、栽培試験調査、土壌分析 ・農用地確定測量調査 ・植物等試験乾燥機購入
②市場調査等	・ジンの市場流通及び需要調査 ・製造に係る初期投資機器類調査等
(2) 体験型農場等整備	
①テスト圃場設置等	・道産馬「ごさんこ」等導入によるテスト圃場設置 ・種苗購入、定植、育成評価 ・ホースセラピー導入検討調査 ・岬遊歩道整備基本構想検討調査
②木育講演会	・木育講演会の実施
③伝統食を通じた食育	・関連大学と連携した地域資源を活用した伝統食の観光メニュー開発
(3) マリアージュ食材開発	
①試作品作成及び食べ合わせ提案会開催	・「マリアージュ」メニュー及びレシピの作成 ・「食べ合わせ提案会」開催 ・自然環境体験ツアー
②保護水面PR動画制作	・サクラマス等マリアージュ食材を育む豊かな河川環境のPR動画の制作。
③資源循環生産システム整備	・河川環境改善による水産資源回復対策事業 ・ウニ殻等漁業系廃棄物資源有効活用推進事業
総事業費：59,100千円	

### 進捗状況と今後の展開

現在、町有農地には、整地を行う「ごさんこ」等5頭が放牧されており、「積丹GIN」開発調査に向けた最初の一歩が踏み出されたところです。

今年度はジンの製造に必要な

ハーブ類等原料の栽培試験調査や、町内で活用可能な植生種の調査把握等を進めるほか、農地整備を担う馬とふれあう体験型イベント等を町外の民間活力等を利用して実施する予定です。



▲旧積丹牧場の町有農地を整地する「ごさんこ」等



第2回少年教室「B&G 野外体験プログラム」

## 「学習活動」も! 広がる施設の活用

B & G 財団より「海洋センターを活用した地域コミュニティの再生に関するモデル事業」のモデル自治体(全国で熊本県湯前町と積丹町の2町)に選定されている積丹町B & G 海洋センターでは、町内各小学校の夏休みを活かした様々な取組が今年も行われました。

7月26日から29日までの4日間は夏休み「朝活どう場」が行われ、参加した児童は各自持ち寄った宿題を進め、夏休みを満喫するための準備を進めた

## 「B&Gジュニア水泳教室」

ほか、「B&Gジュニア水泳教室」が同日実施され、1年生から6年生までの児童がそれぞれの泳力に応じたグループで水泳指導を受けました。最終日の29日にはジュニアライフセービングプログラムが行われ、参加した児童は小樽ライフセービングクラブ所属のライフセーバー指導のもと、いざという時に自分の身を守る「自助」の意識を育みま

## 「避難所」を体験、新たな学びの場所として

8月4日・5日は、海洋センター前でテントを設営し、一泊二日の体験学習を行う第2回少年教室「B&G 野外体験プログラム」が開催され、30人の児童が参加しました。

このプログラムは防災意識の向上を目的に実施された「B & G 避難所体験講座」と同時開催され、専用の器材で自らおこした火でお湯を沸かし、非常食のカレーライスの試食を行ったほか、体育館では各種防災用資機材の展示と体験が行われました。

このほか、災害時に飲料を無償提供する自動販売機のライフ



B&G 避難所体験

ライン・バンダー使用体験や小泊海岸でのライフセービングプログラムが実施されたほか、(一社)北海道建設業協会創立百周年記念事業「レンガに刻む私のみち」への協力として児童が文字やイラストをレンガ10個に刻みました。このレンガは秋以降、道庁赤レンガ前庭歩道に設置される予定です。

この「B & G 避難所体験講座」はモデル事業の枠組みの中で実施された先駆的な取組で、全国的に多くの海洋センターが緊急時の避難場所に指定されていることから、今後、同様の取組みが広く展開されていくことにな

## 姉妹都市交流 香美市児童7名が来町

8月18日から21日まで4日間の行程で、姉妹都市高知県香美市内の小学校4校から7人の児童(小松教育次長ほか2名引率)が来町しました。

来町した児童は役場庁舎を表敬訪問し、松井町長と十河教育長から積丹町や北海道の生活習慣の説明などを受け、雪を知らない児童は「冬にも来てみたい!」と、冬の北海道の姿に想像を膨らませていました。

その後、岬の湯じゃこたんや水中展望船、黄金岬などを見学し、水鳥町水産技術指導員から「ウニ剥き体験」やウニ殻を使った「おみやげ作り」を学びました。また、美国小学校を訪問し、同校と日司小学校の5・6年生と両市町の紹介や方言クイズなどで交流を深めたほか、町内での宿泊のうち1泊は、町内児童宅3軒へのホームステイが行われ、一泊を共に過ごした両市町の児童らは友情を更に深め、再会を約束していました。



今年は香美市合併10周年、積丹町町制施行60年、YOSAKOIソーラン祭り25周年と両市町にとって節目の年となりました。両市町の交流の未来を担う新しい世代の交流の発展は嬉しい限りです。

# 取壊し予定の建物で訓練実施

## 火災発生時の状況を再現

北後志消防組合積丹支署（儀谷宗義支署長・署員17名）は、取壊しが予定されている美国町内の旧町職員住宅2棟を活用し、消防訓練を実施しました。

7月27日から29日まではスモークマシンを使用し、濃煙状態を再現した居室内で要救助者の検索救助訓練と2階窓から要救助者の搬出を行う梯子救助訓練が実施されました。

消防士たちはスモークマシンから発する煙が居室内に充満し、視界が奪われていく経過を観察し、頭を低くし、視界と安全を確保する重要性和、視界が奪われた居室内で要救助者を見つけたドアの破壊訓練を実施し、ソールなどを用い、屋根や施錠されたドアの破壊訓練を実施し、排煙口や避難経路を確保するための資機材の操作方法等を確認しました。

消防士たちの厚い防火衣に身を包み、炎天下のもと大声を掛け合いながら必死に実戦訓練に励む姿は、私たち町民の命と財産を守る当町消防士の技術力と使命感の高さを象徴していました。



1. エンジンカッターで施錠された扉を破る破壊訓練
2. 煙が充満した2階居室から要救助者を搬出する梯子救助訓練
3. 煙が室内に充満していく様子を確認する消防士たち

## “水産業”と“漁村文化”を学ぶ

### 小樽商科大学 / グローカルインターンシッププログラムを実践

8月8日から12日までの5日間、小樽商科大学商学部がグローバルインターンシッププログラムを行いました。教授と学生ら14人が参加したこのプログラムは学生らが積丹町の漁業・水産業の実態を体験し、漁業を中心とした地域振興のあり方を学ぶことを目的に行われました。

参加者は美国町内の漁家を訪問し、積丹町の鯨漁や漁村文化の歴史を学んだほか、サクラマスサンクチュアリーセンターで余別川サクラマス等自然産卵域の散策、美国漁港での磯焼け問題についての学習などを行いました。

また、夜には鯨伝習館ヤマシメ番屋で町民を招き、フランス人学生、ニュージーランド人学生がそれぞれの故郷を紹介する「フランスのタベ」・「ニュージーランドのタベ」や漁師町の伝統料理の調理実習も行われ、訪れた町民へ「にしんの切込み」などが振る舞われました。

参加した学生たちは、積丹町の伝統的な漁村文化や漁師飯を材料にした、産業・商業などの振興に活発な議論を交わっていました。



▲「フランスのタベ」で故郷を紹介

(注)「グローバル」…「グローバル(地球規模の)」と「ローカル(地域の)」を掛け合わせた造語。「インターンシップ」…学生が一定期間企業等の研修生として働き、就業体験を行うこと。

あなたの財産を孫子の代まで守るため！

## 「入舸地区地籍調査事業」に着手

今年度から3地区目となる入舸地区市街地（0・45㎏）を対象にした地籍調査事業を平成30年度までの3年間の予定で実施することになりました。

土地は生活や生産活動をする

うえで最も重要なもので、現地と登記所地図、登記簿等が合致していなければなりません。地籍調査が未実施の地域は、大正10年に道が作成した地図を基本として、土地売買や公共事業の用地取得、課税などが行われ



▲住民説明会の様子（7月26日・入舸町）

ているため、現地と登記所地図、登記簿等の不一致によるトラブルが生じる場合があります。これは時間が経つほど複雑となるため、解決が困難となります。

「地籍調査事業」は、このような不一致を解消するもので、国土調査法に基づいて国の補助金を活用し、町が事業主体となって実施する事業です。人工衛星を利用した高度な測量技術と最新の測量器を用いながら、土地一筆毎に、所在・地番・地目・境界を、所有者等の立会のうえ調査・確認するほか、分筆・合筆・地目変更も併せて行います。なお、「土地の境界」は決して役場の担当者が決定するものではなく、最新の測量調査結果に基づき、隣接する土地所有者同士（不在村者含む）が現地立会のもと、両者が納得したうえで決定することに

### 地籍調査事業の目的

- ①土地取引の円滑化
- ②土地トラブルの未然防止
- ③災害復旧の円滑化
- ④課税の更なる適正化
- ⑤公共事業の円滑化
- ⑥町づくりや政策立案の基礎データ

なります。

初年度の今年度は現地での測量が主な作業となります。測量業者が所有地に立ち入ることがありますので、家屋周辺に立ち入る際には声かけをさせていただきます。見通しの悪いところでは雑木の枝払い・雑草の刈り払いをさせてもらうことがありますのでご了承ください。なお、測量業者は町が発行した「土地立会証」を携行し、従事者であることが一目でわかるよう蛍光ピンク色の「腕章」を着用していただきますのでご協力をお願いいたします。（詳細は8月15日入舸地区の各戸に配付している『地籍調査のあらまし』をご覧ください。）

## 第5回町議会臨時会

### 議会ニュース

平成28年第5回町議会臨時会が8月10日に招集され、同日閉会しました。そのあらましについてお知らせします。

#### 議案第1号

##### 財産の取得について

多目的バス購入事業に係る財産の取得について議会の議決を求めるものです。

（原案可決）

#### 議案第2号

##### 積丹町一般会計補正予算（第5号）

国の平成28年度地方創生推進交付金（新型交付金）については、前年度補正予算「地方創生加速化交付金」による採択済計画2事業の拡充実施を目指して採択要望をしておりましたが、去る8月2日付けで、国から総計画事業費1,710万円に対し、交付金800万円の補助内示を得たことから歳

入歳出予算の総額にそれぞれ1,710万円を追加し、28億9,300万3千円とするものです。

2 計画事業の追加実施内容は

1 「積丹版『健康食』と運動プログラム開発によるしごと創生事業」の

①還元型コエンザイムQ10摂取後の効果追跡調査

②機能性原料の植生把握及び機能分析調査

2 「積丹の気候風土を生かした『スピリッツ開発』によるしごと創生事業」の

積丹GIN開発に係る

①婦美地区（旧積丹牧場）農用地確定測量調査

②植物等試験乾燥機購入体験型農場に係る

①ホースセラピー導入検討調査

②岬遊歩道整備基本構想検討調査

の2事業6項目を追加実施します。

（原案可決）